

平成11年(1999)12月20日

9) 日蓮宗新聞

(昭和27年5月16日第三種郵便物認可)

第1664号

日中友好へお寺同士で「覚書」

広島・國前寺と西安・草堂寺



中国の釈宏林師ら3人による鳩摩羅什三蔵法師読経法要（國前寺）

【広島】流暢な漢訳「妙法蓮華経」（法華経）で後世の法華経研究と伝播に大きな功績を残した鳩摩羅什三蔵法師を顕彰する法要が十一月六日、広島市の本山國前寺（正田英政貫首）で営まれた。鳩摩羅什の墓がある中国・西安の草堂寺からも住持（住職）・釈宏林師ら三人の僧侶を迎え、僧侶檀信徒百六十人が参列した。國前寺と草堂寺との間では、友好と交流の覚書も調印しており、法要後、披露された。

國前寺には昔から鳩摩羅什の像が奉安されており、中国・草堂寺にも日蓮宗摩羅什三蔵法師遺跡顕彰が寄贈し、昭和五十七年三月十三日当時の金子日威長猊下を導師に開眼法要を行った鳩摩羅什の像が祀られている。

平成三年十月には同顯会が草堂寺に鳩摩羅什紀念堂も建立している。

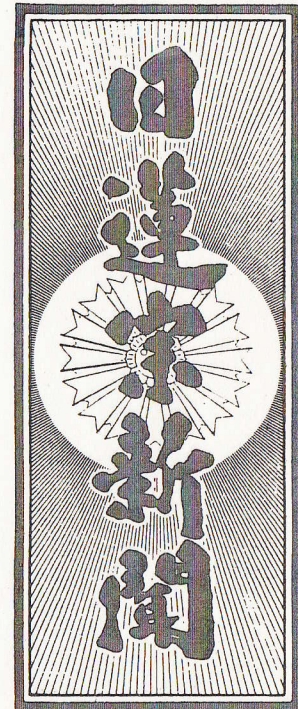
國前寺で営まれた「鳩摩羅什三蔵法師・遺徳顕彰法要」は、ご宝前に鳩摩羅什像を安置、正田貫首を導に、広島県日蓮宗青年会・声明師会が出仕して営まれた。引き続き、草堂寺の侶三人による読経法要がわれた。

参列者たちは、草堂寺侶の読経に、共に手を合せ、『妙法蓮華経』を漢した鳩摩羅什の遺徳に心から感謝した。

その後、『日中友好寺・國前寺交流の覚え書き』が読み上げられ、今後お互いの一層の友好と交を誓った。また、記念品として草堂寺から同寺の鳩

鳩摩羅什三蔵法師の顕彰を縁に

國前寺で法要 中国僧三師参列



発行所
日蓮宗新聞社
東京都大田区池上
7-23-3 (〒146-0082)
電話 03(3755) 5271~3
ファックス 03(3753)7028
郵便振替 00130-0-52147
© 日蓮宗新聞社

次号はカラーで

新春
特別

脚行末歳と托鉢

ひとけ 説法

財法一施功德無量檀波羅蜜 具足円満乃至法界平等利益 今年も十月一日から十二月三十一日まで「赤い羽根 共同募金運動」を行っており、社会福祉事業に活用されていきます。 私の寺のある仏教会では、村内を托鉢して皆さんから浄財の喜捨をいただき、各種社会福祉関係の慰問や施設に従事されている職員の方々、ボランティアの方

新潟県西部布教師会長

長谷川泰雄 (玉泉寺住職)

々に感謝のしるしとして浄財を見舞いをしています。年々歳々ることを無上の法悦としてい、阿仏房御書に云く、『多宝如来の宝塔を供養し給はず我身を供養し給つ。我身も也。かく信じ給いて南無妙法蓮華経』

鳩摩羅什

(三四四—四一三)

亀茲国生まれの学僧で、中国最大の仏典翻訳家。経律論の三蔵に精通したので三蔵法師と尊称する。四〇一年、後秦の姚興に国師の

羅什像を模写した掛け軸が奉納された。

草堂寺を代表して釈諦性師が「中国のことわざ」に縁

があれば、千里を越えて会いに来る」という言葉がある。私たちは、鳩摩羅什三蔵法師の縁により國前寺と

知り合うことができた。中国・日本において一層の仏教発展に貢献しよう。鳩摩羅什三蔵法師の光が再び日中友好の架け橋となることを祈りましよう。世界人類の平和を祈りましよう」と挨拶した。そのあと、西嶋宏明宗会議員、檀徒・森一久氏がそれぞれ挨拶、正田貫首が謝辞を述べた。(渡部通信員)

今春、草堂寺で法要

檀徒 森一久氏が仲介役に

國前寺と草堂寺交流の仲介役を果たしたのは、國前寺の檀徒・森一久氏だった。森氏は日本原子力産業会議副会長を務め、仕事でたびたび中国を訪れている。五年以上前、原爆について中国仏教会の人たちと

「力のこもった作品が多いが大切ですね」

十二回目を迎えた恒例の二月六日、行われた。

審査員は日展特選の書家、職、星弘道師。

第十二回書初

星弘道

今年は応募数が昨年より倍が戒行寺の客間にすわりと並点筆の運びや線の強さなど情真。その結果、金賞・銀賞・二賞。入賞者氏名と作品は、

どぞお楽しみに。

加を目標にしており、目下、

修法師会員、僧侶、檀信徒について参加を募集している。檀信徒は菩提寺を通して問い合わせる。締め切りは一月三十一日。

問い合わせは日蓮宗宗教院教務部内「日蓮宗修法師連合会 海外布教団事務局」(☎〇三—三七五一—

七二八一代)へ。

台湾で慰霊の法要

大地震の修法師連合会、三月に

死者約二千五百人を出した台湾大地震(九月二十一日)の慰霊法要を営むため

全国修法師会連合会(略称・金修連)林海雄会長は、初

台湾訪問に先がけ、沖縄を訪れ戦没者慰霊と戦跡巡

海外布教団は平成十二年三月二十七日から二十九日

海外布教団事務局

海外布教団事務局